

令和7年(2025年) 春号



大津・南部の農業

●発行●

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課

住所: 草津市草津三丁目14-75

TEL: 077-567-5421~5423

FAX: 077-562-8144

E-mail: ga35@pref.shiga.lg.jp

発行責任者: 住谷 一樹

この印刷物は古紙パルプを配合しています

産地の維持・発展に向けて～もりやまフルーツランド～



もりやまフルーツランド直売所(左)と新規参入法人の従業員(右)

守山市北部の湖岸沿いにある果樹産地「もりやまフルーツランド」では、さづかわ果樹生産組合とこばま野洲川地区生産組合で栽培された「もりやま梨」、「もりやまこばまブドウ」が販売されています。

担い手の高齢化により栽培面積が減少傾向であった当産地に、新たな担い手として令和2年度にザ・コロナパークス(株)が参入されました。同法人は、生産者の大切な園地を徐々に継承し、令和6年度にはナシ、ブドウをあわせて産地全体のおよそ半分となる約6haまで拡大されました。

また、同法人の従業員は、全員が滋賀県立農業大学校卒業生の若手農業者であり、若い力を活かして6次産業化や観光農園といった新たな取組にも積極的に挑戦されています。当課は従業員の栽培技術の習得支援および既存生産者との産地内連携の強化、新たな取組への支援を行っています。

法人と組合員の連携により、「もりやまフルーツランド」のさらなる発展が期待されます。

専門家による
直売所レイアウトのアドバイス

大津・南部農業農村振興事務所では、管内の農業・農村振興情報をFacebook、Instagramで発信しています。今後も農業用水工事や産地、栽培技術、イベントなどの情報を発信しますので、ぜひご覧ください。



Facebook



Instagram

冬場の収入源にブロッコリー栽培!



JAレーク滋賀では、統一戦略品目として令和5年度からブロッコリーの市場出荷向け生産を推進しています。当課はJAと連携し、栽培者の収量確保に向けた栽培管理支援や新規栽培者の確保に向けた活動を行っています。

令和5年度は早生品種のみの試験栽培でしたが、高温期の少雨による生育不良や収穫時期の集中による収穫遅れが課題となりました。そこで、令和6年度は散水チューブを使用したかん水による生育改善や、早生品種、中生品種および晩生品種を組み合わせることで10月末～2月まで収穫時期を分散した作付体系を導入しました。

ブロッコリーは消費量が増加しており、令和8年度からは国の「指定野菜」に追加されるなど生産が広がっています。ブロッコリー栽培に興味がある方は、当課までご連絡ください。



ほ場巡回



箱詰めされたブロッコリー

緑肥を活用して、環境にやさしい農業を!



生育中のヘアリーベッチ

管内では緑肥を活用して、肥料の削減の試みや土壌の改良の取組が広がりつつあります。

水稻においては、マメ科のヘアリーベッチを活用される事例が増えています。一般的には秋に種子をまき、春の水稻作業前にすき込みます。土壌中に多くの有機物をすき込むため、肥料の削減が可能となりますが、還元障害が発生しやすくなることから、水管理には注意が必要です。化学肥料を使用せずに栽培する新品種「きらみずき」でも、ヘアリーベッチを利用した栽培が実践されています。

野菜においても、緑肥栽培が試験的に実施されています。栗東有機栽培グループは、環境こだわり基準で軟弱野菜を生産しておられます。令和6年度には、マメ科のセスバニアとイネ科のソルガムを栽培され、透水性向上や減肥につなげることができました。また、露地だけでなく、ハウスでも緑肥の活用が進んでいます。

当課では、今後も持続可能な農業に向けて緑肥を活用した栽培を支援していきます。



セスバニア細断の様子

近江米新品種「きらみずき」本格デビュー! 作付拡大中!

「きらみずき」は、夏の高温に強く品質が安定しており、大粒でしっかりとした食感とみずみずしい甘さが特徴の良食味品種です。また、栽培方法は環境こだわり農産物栽培基準よりも厳しい「栽培期間中に化学肥料、殺虫・殺菌剤を使用しない栽培」と「オーガニック栽培(有機栽培)」のいずれかに限定し、“こだわる人が選ぶ「おいしさ」と「やさしさ」”をコンセプトに魅力発信に努めています。



高温登熟性に優れた「きらみずき」

大津・南部地域における作付は、令和5年度13名9.7haでスタートし、令和6年度には72名44.4haに増加しました。県全体で生産量が増えたため、直売所や一部量販店での販売も開始されています。



栽培研修会

当課では、「きらみずき」の安定生産を目指し、JAをはじめ関係機関と連携し、ほ場巡回や栽培研修会の開催、栽培技術情報の発信などを行いました。令和7年産に向けた作付推進説明会にも69名が参加され、今後さらなる作付拡大が見込まれることから、引き続き支援を行います。

農業濁水の流出防止で大切な琵琶湖を守りましょう

～農業濁水を流出させないための管理ポイント～

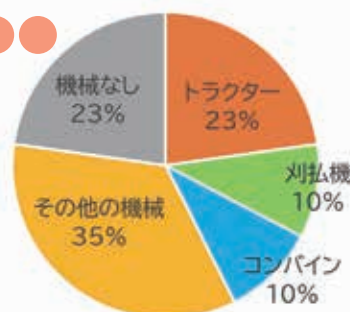


- ① ほ場の均平化：丁寧に耕起・耕うん作業を行いましょう。
- ② 漏水防止：畔の補修（畔塗りや畦畔シート設置）や止水板を適切に設置しましょう。
- ③ 浅水代かき：計画的に入水して、土が7～8割見える状態で代かきを行いましょう。
- ④ 落水なしの移植：田植前に落水せず、代かき後速やかに移植・播種しましょう。



●農作業事故ゼロに向けて●●●●●●●●●●●●●●●●

令和5年度に県内で発生した農作業事故のうち、40%以上がトラクター、刈払機、コンバインで占められています。機械を使用する時はヘルメットを着用し、草刈り作業時には防護メガネを着用するとともに、安全確認を徹底して事故を防止しましょう。また、近年の農作業事故のうち、熱中症による死亡者が全国的に増えてきています。気温が上がる5月頃からは熱中症にも十分注意しましょう。



農作業事故機械別発生割合
(令和5年度)

新規就農者の紹介

守山市 しん かい 新開 たつ ひろ 竜大さん



新開さんは、大学卒業後、香川県の農業法人に就職され、約3年間青ネギやレタスなどの栽培に携わられました。その後、独立を決意され、令和6年3月に守山市に移住、農業経営を開始されました。春はモリヤマメロン、夏はコマツナ、秋冬はシュンギクをハウス4棟で栽培されています。近隣のベテラン生産者に栽培技術の指導を仰ぐなど、移住1年目にもかかわらず、すでに地域に溶け込まれています。地元からの信頼も高いことから、今後ますますの活躍が期待されます。



大津市 なか はら しん いち ろう 中原進一郎さん



中原さんは、大津市のサーフショップで店長兼サーフィンインストラクターとして16年間勤めておられましたが、第二の人生として以前から興味を持っていた農業に携わる事を決意し、就農されました。イチゴ生産者の元で1年間研修された後、令和6年より675㎡の連棟ハウスでイチゴ経営を開始されました。滋賀県が初めて育成したイチゴ新品種「みおしずく」を全面積で栽培されており、11月から順調に収穫が始まり市場へ出荷されています。20年後もイチゴ農家として継続できることを目標に、自分なりの生産技術と販売方法を確立していきたいとの思いを持って取り組んでいかれます。



野洲市 の たに 野谷 よう し 曜司さん



野谷さんは、「魅力的な農産物を届けることで地域の方々に喜びを届けたい」との熱い思いから、県外の自動車メーカーを退職し、滋賀県立農業大学校養成科に入学されました。卒業後は農大の仲間や地元農家の協力を得て、野洲市でパイプハウス3棟(1,500㎡)を建設して、令和6年3月よりイチゴ栽培に取り組まれています。

現在、「みおしずく」、「章姫」、「よつぼし」の3品種を栽培され市場出荷に向けて、11月末から収穫が始まっています。新しい技術を積極的に取り入れられ、6t/10aを当面の収量目標として栽培管理されています。

